

## / 所 / 蔵 / 資 / 料 / 紹 / 介 /

Kan ichi Asakawa papers (朝河貫一文書) マイクロフィルム 【FM289 A9370 閉架】

### 【アメリカにおける日本学の祖】

今回紹介する朝河貫一については、初めてその名前を耳にする方が多いのではないかと思います。彼の日本での知名度は決して高いとは言えませんが、《アメリカにおいて日本研究に尽力した日本人》の一人として忘れてはならない人物と言えるでしょう。

朝河は福島県二本松に生まれ、<sup>あさか</sup>安積中学卒業後、東京専門学校（後の早稲田大学）に進学します。卒業後の1896年に渡米し、ダートマス（Dartmouth）大学に留学、卒業後はイェール（Yale）大学大学院に進学し『六四五年の改革（大化の改新）の研究』*The Early Institutional Life in Japan*で博士号を取得しています。1906年からは同大学で日本語、日本文化史等を教えるかたわら世界レベルの研究を続け、日欧封建制研究に卓越した業績を残した歴史学者であります。またイェール大学図書館や米国議会図書館には、彼が収集した膨大な数の日本関係図書が残されており、その後の両者の日本研究発展の基礎を築きました。

### 【国際人としての朝河】

朝河はこのように学問的に優れていただけでなく、故国日本が世界の中での梶取りを間違えないようにと心を砕き、奔走した国際人でもありました。日露戦争時には、黄禍論と経済侵略ゆえの反日感情が渦巻くアメリカで、日本の実情を説いて回り、アメリカの助力をえて、日本の面目をつぶすことなく有利な場面で戦争を終結させたポーツマス条約を準備した功労者でありました。また太平洋戦争では、日米開戦を避けるためにルーズベルト大統領から昭和天皇宛の親書を送る運動を行っています。残念ながらこの親書が日本に届いたのは、日米がすでに戦争状態に入っていた1945年12月8日であり、戦争を回避する力とはなりませんでしたが、異郷にいながら最後まで日本の行く末を案じ続けたのでした。



《イェール大学ハークネスタワーと朝河貫一博士》

### 【Kan'ichi Asakawa papers】

さて、今回紹介する *Kan'ichi Asakawa papers* は、次の3つのセクションで構成されています。

- . CORRESPONDENCE 1895 - 1948
- . DIARIES 1900 - 1948
- . WRITINGS, NOTES, MISCELLANEA  
1894 - 1940

セクション には、家族や親しい友人宛てに出された書簡類が多数含まれています。その中には第二次世界大戦時に、アメリカに在住する一日本人として自分が取るべき行動について思索した手紙や、ルーズベルト大統領から天皇へ送った親書の下書きなどが含まれています。

セクション は、朝河が学生だった頃に書かれた日記と研究者としての活動を詳細に記した日記で構成されています。

セクション には、新聞の切り抜き、ノート類、エッセイ、写真、学生の論文など様々なものが含まれていますが、大半が日本の歴史に関する資料となっています。

## 大宅壮一文庫雑誌記事 索引の検索が簡単に！

### 【朝河と同志社】

ここで朝河と同志社の関係について少し触れてみたいと思います。前述したように朝河は東京専門学校に進学しますが、そこで同志社出身で早稲田の礎を築いた大西<sup>おおにし</sup> 祝<sup>はじめ</sup>の薫陶を受け、更に東京本郷教会にて後に同志社総長となる横井時雄から洗礼を受けています。卒業後は徳富蘇峰<sup>とくとみ そほう</sup>主筆の民友社「国民新聞」に寄稿し、大西・横井・蘇峰等の篤い援助を受けてダートマス大学への留学を実現しています。また、イエール大学、米国議会図書館の日本関係図書収集に際しては、イエール大学の同級生で、のちに同志社総長も努めた牧野虎次も協力しています。このような関係から朝河の残した往復書簡には初期同志社関係者のものが数多く含まれています。その中から第3代総長横井時雄が朝河に宛てた1898年の手紙の一部を紹介しましょう。横井からの手紙には「何とか同志社を一私立大学として天下に恥じざるもの」とするべく奔走している近況と、「その道は相当険しいが、直面する難局を打開したい」気持ちが続られています。



《横井時雄が朝河に宛てた手紙》

イエール大学では朝河が残した私文書を、第二次世界大戦後に大学アーカイヴズ（公文書保管所）に受け入れたということです。そして初期同志社関係者の書簡が多数含まれていることから、この度イエール大学にマイクロフィルムの複写を依頼し、同志社大学にも一部所蔵することになりました。

『大宅壮一文庫雑誌記事索引』がCD-ROMからWeb版に移行して検索しやすくなりました。ホームページ（図書館/データベースの利用）からアクセスできます。

[ <http://www.oya-bunko.com> ]

大宅壮一文庫は、評論家大宅壮一が力を尽くして収集した雑誌の図書館です。一般大衆の中に浸透していた雑誌のような資料にこそ、当時の民衆のあり様を見てとることができると考えていた大宅氏だけに、この文庫には大衆娯楽誌を中心に、明治時代から現在までの約1万タイトル・60万冊もの雑誌が収められており、一味違う特色をもっています。

このデータベースでは、そのうち約370タイトルの1988年以降の雑誌記事（雑誌名・記事見出し・執筆者・キーワードなどを抽出したもの）について検索できます。

詳細検索では、執筆者や記事種類（インタビュー/対談）などの条件を加えて調べることも可能です。さらに、文庫が独自に分類した、人名・職業ジャンル・件名について一覧から選択し検索することで、調べたい事柄を適切な分類の基に検索できるようになっています。



なお、明治時代～1995年の記事については、人名・件名ごとに冊子体で調べることも可能です。『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』

（請求記号027.5 O478両校地参考室）